

勤労者家庭の妻の意識に関するアンケート調査
— 結 果 報 告 書 —

昭和 59 年 3 月

労働省婦人少年局

ま え が き

婦人少年局では、今後の勤労者家族福祉対策の参考とするため、勤労者世帯の家庭機能や夫婦・親子間のコミュニケーション等を事例的に把握することを目的として本調査を実施し、このたびその結果を取りまとめたので、婦人問題及び勤労者家族問題に関心を持たれる方の御参考に供します。

昭和 5 9 年 3 月

労働省婦人少年局長

赤 松 良 子

目 次

まえがき

I 調査の概要	1
II 調査結果の概要	2
1 家事・育児などの家庭機能について	2
(1) 日常生活における家事・育児などの担当者	2
(2) 家族が病気・けがなどで寝込んだり入院したりした時の家事 ・育児の担当者など	3
(3) 家族が病気・けがなどで寝込んだり、入院したりした時に困 ったこと	5
2 家庭生活における夫婦及び親子のコミュニケーションについて ...	8
(1) 平日における夫の在宅時間	8
(2) 家族そろって食事をとる頻度	9
(3) 子供のしつけ、勉強、進路や親の世話についての夫婦の話し 合い	10
(4) 親子の話し合い（小学校4～6年生、中学生のいる場合）.....	11
(5) 父親の仕事に対する子供の理解度、父親の職場との子供の接 触度など（小学校4～6年生、中学生の場合）	12
(6) 子供の問題に関する母親の悩み、不安（小学校4～6年生、 中学生の場合）	14
(7) 小さい子供と父親との接触（就学前、小学校1～3年生のい る場合）	16
(8) 家族のための夫の休暇の取得とその目的	16
(9) 家事・育児等への夫の参加、関心に対する妻の満足度	18
(10) 妻の外出の頻度とその理由	19
(11) 家事援助に対するニーズ	21

3. 夫の単身赴任について	21
(1) 夫の単身赴任と留守家庭の問題	21
(2) 夫の遠隔地転勤の可能性と妻の意識	23
(3) 夫の転勤などにより現在別居している家族の状況	24
4. 調査対象者について	26
(附 録) 調査票	29

◎ 利 用 上 の 注 意

1. 本アンケート調査は、「婦人就業援助施設」及び「働く婦人の家」利用者の中から調査対象者を抽出したことにより、有職者よりも無職者の割合が高い。
2. 調査対象者数が1,010名であることから、夫の職種別に事務職、生産・技能職、販売・サービス職、専門・技術職、管理職などの該当者が少ない。
3. 本文中の表のうち、複数回答と表示してあるものについては、構成比は必ずしも100にならない。また、小数第1位を四捨五入している。

I 調査の概要

1 調査の目的

高齢化、核家族化の進展により、勤労者の家族を取り巻く状況が変容していることから、このような状況を踏まえて、勤労者世帯の家庭機能や夫婦・親子間のコミュニケーションに関する実態を、妻の意識を通じて明らかにし、今後の勤労者家族福祉対策などの参考に資する。

2 調査項目

- (1) 家事・育児などの家庭機能
- (2) 家庭生活における夫婦及び親子のコミュニケーション
- (3) 家事援助に対するニーズ
- (4) 単身赴任

3 調査対象

- (1) 地 域 全国
- (2) 対象者 婦人就業援助施設及び働く婦人の家の利用者で、勤労者の配偶者を有し、かつ、子供のある50歳未満の女子 1,010名

4 調査時期 昭和58年9月1日～30日

5 調査機関 労働省婦人少年局——婦人少年室

6 調査方法 実地自計による。

Ⅱ 調査結果の概要

1 家事・育児などの家庭機能について

(1) 日常生活における家事・育児などの担当者

日常生活における家事・育児など担当者については、いずれの事項においても「主として妻」の回答が7～9割台の大半を占める。また、家事・育児などに対する夫の参加、協力の程度を聞いたところ、「主として妻が担当し、夫はほとんどしない」の答えが、「日常の家事（掃除、洗たく、食事、買物など）」72％、「幼稚園・学校等の行事、PTAなどへの参加」68％、「病人・お年寄りの世話」55％の順で多いが、割合は低いものの夫の参加・協力が比較的にみられるのは「自治会、町内会など地域活動への参加」（「主として夫」10％＋「夫婦が協力」13％）、「病人・お年寄りの世話」（「夫婦が協力」13％）、「日常の育児（子供の世話、お守、遊び相手など）」（「夫婦が協力」12％）である。

表1 日常生活において家事・育児などは誰が担当しているか。

項 目	該当者数	構成比	主 として 妻				夫婦が協力する	主として夫	主としてその他の家族
			計	夫はほとんどしない	夫は少しする	夫はある程度する			
1. 日常の家事(掃除、洗たく、食事、買物など)	1,010	100	95	72	18	6	3	0	1
2. 日常の育児(子供の世話、お守、遊び相手など)	272	100	83	27	39	18	12	—	4
3. 幼稚園・学校等の行事、PTAなどへの参加	926	100	94	68	19	7	5	0	0
4. 自治会、町内会など地域活動への参加	1,010	100	72	44	17	10	13	10	4
5. (病人・お年寄りがいる場合)病人・お年寄りの世話	201	100	81	55	17	8	13	0	5

注1. 「日常の育児」の該当者（就学前の子供を有する者をいう。）数は、調査対象者数1,010人のうちの27％に当たる。

2. 「幼稚園・学校等の行事、PTAなどへの参加」の該当者（高校生以下の子供を有する者をいう。）数は、調査対象者数1,010人のうちの92％に当たる。

(2) 家族が病気・けがなどで寝込んだり入院したりした時の家事・育児の担当者など

- ① (妻の病気・けが、出産の場合) 妻本人が病気・けがや出産で寝込んだり入院したりした時の家事・育児などの担当者を聞いたところ「病気・けが」の場合には「夫」62%が最も多く、次いで「妻の母」「子供」「夫の母」がそれぞれ3割前後と多くなっており、また、「出産」の場合には「妻の母」66%が最も多く、次いで「夫の母」4割、「夫」3割の順になっている。

病気・けが、出産のいずれの場合も「夫」、「妻又は夫の母」などの近親者によって大部分が対処されており、「友人・知人」「近所の人」「家政婦、ベビーシッター、ホームヘルパー」などを頼む割合は少ない。家族構成別にみると、核家族の場合は妻の病気・けがの際には「夫」や「子供」の割合が高く、三世代家族の場合は「夫の母」の割合が高まっている。

- ② (夫、子供、同居の親の病気・けがの場合) 夫や子供、同居の親が病気・けがで寝込んだり入院したりした時の病人の介護や家事・育児などについては「妻のみで対処(妻の他には特に誰もいない)」が「夫の病気・けが」4割、「子供の病気・けが」2割、「同居の親の病気・けが」3割となっているが、妻の他にこれを援助する者としては、「親せき(兄弟姉妹、妻又は夫の父など)」、「夫の母」、「妻の母」の三者の割合が多い他、「夫」の割合が子供の病気・けが(45%)、同居の親の病気・けが(33%)では高くなっている。家族構成別にみると、核家族の場合には、「妻のみで対処」の割合が三世代家族の約2倍と高いほか、子供の病気・けがについては「夫」の割合が高くなっている。

表2 家族が病気・けがなどで寝込んだり入院したりした時に
介護や家事・育児などを誰が担当し、助けてくれたか。

(複数回答)

介護、家事・育児などの 担当者、援助者	妻		夫の 病気・けが	子供の 病気・けが	同居の親の 病気・けが
	病気、けが	出 産			
該 当 者 数	506人	999人	363人	528人	164人
構 成 比	100%	100%	100%	100%	100%
1. 夫	62	31	—	45	33
2. 妻 の 母	32	66	17	25	11
3. 夫 の 母	26	38	23	23	13
4. 子 供	27	2	9	2	8
5. 妻又は夫の父、兄弟姉妹、 親せき	11	13	32	24	42
6. 友 人 、 知 人	6	2	4	3	1
7. 近 所 (地 域) の 人	7	3	5	7	2
8. 家政婦、ベビーシッター、 ホームヘルパーなど	2	3	0	0	5
9. (妻の他には) 特 に 誰 も い な い	2	2	36	22	27

注1. 妻の病気・けがの該当者(寝込んだり入院したりしたことのある者。以下同じ。)数は、調査対象者数1,010人のうちの50%に当たる。

2. 妻の出産の該当者数は、調査対象者数1,010人のうちの99%に当たる。

3. 夫の病気・けがの該当者数は、調査対象者数1,010人のうちの36%に当たる。

4. 子供の病気・けがの該当者数は、調査対象者数1,010人のうちの52%に当たる。

5. 同居の親の病気・けがの該当者数は、調査対象者数248人のうちの66%に当たる。

(家族構成別)

(複数回答)

介護、家事・育児などの 担当者、援助者	妻の病気・けが		妻の出産		夫の病気・けが		子供の病気・けが	
	核家族	三世 代家 族	核家族	三世 代家 族	核家族	三世 代家 族	核家族	三世 代家 族
該 当 者 数	373人	105人	720人	219人	272人	70人	392人	98人
構 成 比	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
1. 夫	67	42	33	24	—	—	48	37
2. 妻の母	34	28	69	58	18	14	23	37
3. 夫の母	17	54	32	56	14	51	16	47
4. 子 供	30	12	2	1	9	9	2	4
5. 妻又は夫の父、兄弟姉妹、 親せき	11	11	14	8	34	29	23	26
6. 友人・知人	6	4	2	—	5	—	4	—
7. 近所（地域）の人	8	7	4	2	6	1	8	4
8. 家政婦、ベビーシッター、 ホームヘルパーなど	2	2	3	3	0	—	—	2
9. (妻の他には) 特に誰もいない	3	—	2	0	41	23	25	12

注1. 「核家族」とは、夫婦のみ及び夫婦と子供の世帯をいう（以下同じ。）。

2. 「三世代家族」とは、夫婦と子供と親（両親又は片親）の世帯をいう（以下同じ。）。

(8) 家族が病気・けがなどで寝込んだり入院したりした時に困ったこと

- ① （困ったことの有無） 家族が病気・けがなどで寝込んだり入院したりした時に、困ったことがあったと答えた者の割合は、「同居の親の病気・けが」の場合52%、「妻の病気・けが」40%、「夫の病気・けが」34%、「子供の病気・けが」34%、「妻の出産」30%の順で多い。家族構成別には、核家族の「妻の病気・けが」の場合に困ったこと有の割合が高くなっている。

- ② （困ったことの内容） 困ったことの内容としては、妻の病気・けが、

出産の場合には「気軽に家事・育児を頼める人がいなくて困った」（「病
気・けが」44%、「出産」43%）をあげる者が最も多く、次いで「夫
が忙しくて夫の手助けがなくて困った」（同35%、37%）、「自分の
健康・体力の回復が思わしくなくて困った」（同32%、25%）の順と
なっている。

また、夫や子供、同居の親の病気・けがの場合に困ったことの内容とし
ては、いずれの場合にも「自分が精神的に疲労困ぱいした」（4割以上）、
「自分が体力的に疲労困ぱいした」（3割以上）が1位、2位を占めて最
も高く、特に同居の親の病気・けがの場合における妻の精神的疲労（66
%）、体力的疲労（55%）が高いのが目立つ。この他、「気軽に病人の
介護や家事・育児を頼める人がいなくて困った」（2～3割）、「夫が忙し
くて手助けがなくて困った」（1～2割）をあげる者が多く、なお、「経
済的に困った」の答えは夫の病気・けがの場合（2割）に多くみられる。

家族構成別には、核家族の場合に気軽に頼める人がいない、夫が忙しい、
をあげる割合が高くなっている。

表3 家族が病気・けがなどで寝込んだり入院したりした時に困っ
たこと

① 困ったことの有無

項 目	該当者数	構成比	困ったこと有			困ったこと 無
			計	核家族	三世代 家 族	
妻の病気・けが	506	100	40	42	33	60
妻の出産	999	100	30	32	27	70
夫の病気・けが	363	100	34	33	38	66
子供の病気・けが	528	100	34	34	30	66
同居の親の病気・けが	164	100	52			48

注1. 核家族、三世代家族の「困ったこと有」の割合は、それぞれの該当者に対する割合である。

2 「計」には、その他の家族を含む（以下同じ。）。

②-1 困ったことの内容（妻の場合）

（複数回答）

項 目	妻の病気・けが			妻の出産		
	計	核家族	三世 代 家 族	計	核家族	三世 代 家 族
該 当 者 数	人 506	人 373	人 105	人 999	人 720	人 219
構 成 比	% 100	% 100	% 100	% 100	% 100	% 100
1. 気軽に家事・育児を頼める人がいなくて困った	44	49	23	43	46	29
2. 夫が忙しくて手助けがなくて困った	35	37	29	37	39	29
3. 自分の健康・体力の回復が思わしくなくて困った	32	32	31	25	26	26
4. 育児の経験者や相談相手がなくて困った	2	2	3	15	17	10
5. 経済的に困った	7	7	6	12	12	12
6. そ の 他	5	3	6	6	6	5

②-2 困ったことの内容（夫、子供、同居の親の場合）

（複数回答）

項 目	夫の病気・けが			子供の病気・けが			同居の親 の病気・けが
	計	核家族	三世 代 家 族	計	核家族	三世 代 家 族	
該 当 者 数	人 125	人 90	人 26	人 177	人 132	人 29	人 86
構 成 比	% 100	% 100	% 100	% 100	% 100	% 100	% 100
1. 気軽に病人の介護や家事・育児を頼める人がいなくて困った	31	42	4	23	27	10	16
2. 夫が忙しくて手助けがなくて困った	—	—	—	25	31	14	11
3. 自分が体力的に疲労困憊した	34	31	50	33	36	28	55
4. 自分が精神的に疲労困憊した	49	49	54	42	42	48	66
5. 相談相手がなくて困った	4	4	4	4	5	3	5
6. 入院できる病院がなくて困った	0	0	0	0	0	0	5
7. 経済的に困った	18	21	8	9	9	3	12
8. そ の 他	6	8	4	7	8	0	5

2 家庭生活における夫婦及び親子のコミュニケーションについて

(I) 平日における夫の在宅時間

① (在宅時間) 平日における睡眠時間を除く夫の在宅時間を妻がどの位とみているかを聞いたところ(睡眠時間の個人差は考慮せず起きている間の在宅時間のみを質問した)、「3時間～5時間未満くらい」と答えた者が49%と約半数であり、次いで「2～3時間未満くらい」24%、「5～7時間未満くらい」17%の順となっており、「2時間未満くらい」6%、「7時間以上くらい」5%もわずかながらある。

② (在宅時間が短い理由) 夫の在宅時間が3時間未満(「2～3時間未満」24%+「2時間未満」6%)と短い場合の理由については、「残業などにより会社にいる時間が長い」73%とみている妻が大部分であり、次いで「同僚・友人とのつきあい」26%、「通勤時間が長い」21%が多い。

夫の職種別にみると、在宅時間の長さにはあまり差がないが、在宅時間が短い理由については、残業をあげた者が、専門・技術職、管理職に多く(それぞれ8割以上)、また、つきあいをあげた者が事務職(4割)、管理職(3割)に多くみられる。

表4 平日における睡眠時間を除く夫の在宅時間はどのくらいか

項 目	該当者数	構成比	2時間 未満	2～3時間 未満	3～5時間 未満	5～7時間 未満	7時間 以上
総 数	979人	100%	6%	24%	49%	17%	5%
(夫の職種別)							
事 務 職	223	100	5	24	48	21	2
生産・技能職	110	100	6	18	56	15	6
販売・サービス職	137	100	6	23	53	12	7
専門・技術職	208	100	6	26	46	18	5
管 理 職	223	100	6	26	47	15	6

注1. 総数には「その他の職種」を含む(以下同じ。).

2. 該当者数979人は、現在夫の単身赴任中を除く。

表5 在宅時間が短い（3時間未満）理由はどれに当たるか

（複数回答）

項 目	該当者数	構成比	通勤時間が長い	残業などにより会社にいる時間が長い	同僚、友人とのつきあいでいる	自分の趣味、勉強などによる	わからない	その他
総 数	人 286	% 100	% 21	% 73	% 26	% 8	% 2	% 1
(夫の職種別)								
事 務 職	65	100	19	68	43	6	2	2
生産・技能職	27	100	19	78	15	—	4	—
販売・サービス職	39	100	18	56	21	5	5	3
専門・技術職	65	100	20	85	11	12	—	2
管 理 職	71	100	24	85	31	3	—	—

(2) 家族そろって食事をとる頻度

家族そろって食事をとる頻度は、「ほとんど毎日」と答えた者が朝食51%、夕食41%となっている。朝食に比べて夕食の場合は「ほとんど毎日」の割合が1割程度低く、「週に半分ぐらい」「週に1～2回」がそれぞれ3割弱ずつとなっている。

夫の職種別にみると、生産・技能職の場合は朝食「ほとんど毎日」の割合は低いものの夕食には家族がそろう頻度が高く、管理職の場合は夕食に家族がそろう頻度が低くなっている。

表6 1週間に何回家族そろって食事をとるか

項 目	該当者数	構成比	朝 食				夕 食			
			ほとんど毎日	週に半分ぐらい	週に1～2回ぐらい	ほとんどない	ほとんど毎日	週に半分ぐらい	週に1～2回ぐらい	ほとんどない
総 数	人 1010	% 100	% 51	% 16	% 20	% 13	% 41	% 27	% 27	% 5
(夫の職種別)										
事 務 職	224	100	55	17	17	12	42	27	27	5
生産・技能職	113	100	39	23	26	12	45	32	20	4
販売・サービス職	136	100	46	23	16	15	38	24	31	7
専門・技術職	216	100	52	16	20	12	41	30	25	5
管 理 職	238	100	53	11	21	15	35	24	35	6

(8) 子供のしつけ、勉強、進路や親の世話についての夫婦の話し合い

中学生以下の子供のいる家庭で「子供のしつけ、勉強、進路」についての夫婦の話し合いは「時々ある」50%、「よくある」40%の順で答えた者が多く、「あまりない」8%、「ほとんどない」2%は合わせて1割となっている。また、現在及び近い将来世話する親のいる場合「親の世話」についての夫婦の話し合いは「時々ある」48%が最も多く、「よくある」18%よりも「あまりない」16%と「ほとんどない」17%を合わせた割合が3割と多い。

夫婦の話し合いが「あまりない」「ほとんどない」と答えた者について、その理由を聞いたところ、子供の問題については、「妻にまかされているから」(6割)が最も多く、次いで「夫が忙しくて時間がないから」「夫が面倒がるかイヤがる」(それぞれ2割半ば)が多いが、親の問題については、「特に理由はない」(3割)が多いほか、「妻にまかされているから」「特に話し合わなくても意見が一致しているから」(それぞれ2割半ば)が多くなっている。

表7 子供の問題、親の問題について夫婦でよく話し合うか

① 話し合い頻度

項 目	該当者数	構成比	よくある	時々ある	あまりない	ほとんどない
	人	%	%	%	%	%
(中学生以下の子供のいる場合)						
子供のしつけ、勉強、進路	842	100	40	50	8	2
(現在及び近い将来世話する親のいる場合)						
親の世話	589	100	18	48	16	17

② 「あまり」「ほとんど」話し合わない理由

(複数回答)

項 目	子供のしつけ、勉強、連絡	親 の 世 話
該 当 者 数	79 人	194 人
構 成 比	100 %	100 %
1. 妻にまかされているから	57	24
2. 特に話し合わなくても意見が一致しているから	11	25
3. 夫が忙しくて時間がないから	25	8
4. 夫が面倒がるか、イヤがるから	24	7
5. 夫にまかせているから	1	7
6. そ の 他	4	10
7. 特に理由はない	11	33

(4) 親子の話し合い(小学校4～6年生、中学生のいる場合)

① (親子の話し合いの頻度) 小学校4～6年生、中学生のいる家庭で子供と親との話し合いが、「母親」(調査対象者本人)については「よくある」75%と答えたものが大部分であり、「あまりない」「ほとんどない」と答えた者は合わせて2%とごくわずかである。また「父親」(本人の夫)については「よくある」38%は母親の場合の半分程度であり、「時々ある」が約半数、「あまりない」「ほとんどない」は合わせて1割程度である。なお、子供と母親との話し合いの頻度は、母親の有職・無職に関係なく、いずれの場合もよく話し合うと答えた者が大部分である。

② (話し合い内容) 親子の話し合いが「よくある」と「時々ある」と答えた者について、会話の内容を聞いたところ、「母親」の場合は「子供の学校生活」など身近な話題をあげる割合が多く、一方、「父親」の場合は「趣味・スポーツなど余暇活動」の割合が多い。なお「父親の仕事のこと」について話し合い割合は、父親(39%)が母親(32%)を若干上回っている。

表 8 親子で話し合うか（小学校 4～6 年生、中学生のいる場合）

① 話し合う頻度

項 目	該当者数	構 成 比	よくある	時々ある	あまりない	ほとんどない
母親との会話	556人	100%	75%	23%	2%	0%
無 職	320	100	75	23	1	0
有 職	234	100	75	23	2	—
父親との会話	556	100	38	48	11	3

注 有職には、常勤、パート・臨時雇、内職、家族従業者及び自営業主を含む（以下同じ。）。

② 話し合い内容（「よくある」、「時々ある」場合）

（複数回答）

項 目	母 親 と の 会 話	父 親 と の 会 話
該 当 者 数	545 人	476 人
構 成 比	100 %	100 %
1. 子供の学校生活(学校、友人、先生)	97	59
2. 趣味・スポーツなど余暇活動	65	73
3. 子供の将来、進路、職業	55	48
4. 社会で起きた事件、ニュース	56	54
5. 父親の仕事のこと	32	39
6. 家族のこと	51	33
7. そ の 他	8	7

- (5) 父親の仕事に対する子供の理解度、父親の職場との子供の接触度など
（小学校 4～6 年生、中学生の場合）

- ① （父親の仕事に対する子供の理解度） 小学校 4～6 年生、中学生のいる家庭について、「子供が父親の仕事についてどの位知っていると思うか」を聞いたところ、「大体知っている」と思うという回答 51% が最も多く、「よく知っている」16% を合わせて約 7 割にのぼり、この他「少し知っている」28%、「ほとんど知らない」5% となっている。「よく知って

いる」の割合は生産・技能職、販売・サービス職、専門・技術職で高く（2割以上）、事務職、管理職では低い（1割台以下）。

- ②（父親の職場と子供の接触度） 同じく小学校4～6年生、中学生の子供が父親の職場とどの程度接触したことがあるかを「父親の職場を子供が見たことがあるか」、「運動会など会社の行事へ子供が参加したことがあるか」の二点について聞いたところ「見たことがある」の回答は62%、「参加したことがある」の回答は55%と、それぞれ半数を上回っている。「見たことがある」の割合は生産・技能職がやや低いが逆に「参加したことがある」の割合は高い。

表9 父親の仕事を子供がどの程度知っていると思うか
（小学校4～6年生、中学生の場合）

項 目	該当者数	構成比	よく 知っている	大体 知っている	少し 知っている	ほとんど 知らない	わからない
総 数	556人	100%	16%	51%	28%	5%	0%
（夫の職種）							
事 務 職	111	100	5	59	33	4	0
生産・技能職	62	100	23	53	13	11	0
販売・サービス職	76	100	22	54	20	4	0
専門・技術職	113	100	20	52	24	4	0
管 理 職	152	100	12	44	37	7	0

表10 父親の職場を子供は見たことがあるか、運動会など会社の行事へ
子供が参加したことがあるか（小学校4～6年生、中学生の場合）

項 目	該当者数	構 成 比	父 親 の 職 場 を		運動会など会社の行事へ	
			見たことが ある	見たことが ない	参加した ことがある	参加した ことがない
総 数	人 556	% 100	% 62	% 38	% 55	% 45
(夫の職種)						
事 務 職	111	100	64	36	60	41
生産・技能職	62	100	50	50	65	36
販売・サービス職	76	100	68	32	54	46
専門・技術職	113	100	66	34	48	52
管 理 職	152	100	61	39	58	42

(6) 子供の問題に関する母親の悩み、不安（小学校4～6年生、中学生の場合）

① （悩みや不安の有無） 小学校4～6年生、中学生を持つ母親に「子供のしつけや教育上のことなどで悩んだり不安を感じたりしていることがあるかどうか」を聞いたところ、「ある」と答えた者が85%の多数にのぼる。母親のこうした悩みや不安の有無の割合は、母親の職業有無別、家族構成別にみてもほとんど変わらない。

② （悩みや不安の内容） 悩みや不安の内容としては「子供の生活態度、習慣、性格などに関すること」62%、「子供の成績、勉強に関すること」60%が1位、2位を占めて高く、次いで「子供の入試、進路に関すること」46%、「子供の健康、体力に関すること」41%の順で多くなっており、その他「子供の友人関係に関すること（友達や異性関係）」「子供の学校教師との関係に関すること」、「親子の意志疎通、信頼関係に関すること」、「非行暴力に関すること」が1～2割台あげられている。

表 1 1 子供のしつけや教育のことで悩んだり不安を感じたりしていることがあるか（小学校 4～6 年生、中学生のいる場合）

① 悩み不安の有無

項 目	該 当 者 数	構 成 比	悩んだり不安を感じたりしていることが	
			有	無
総 数	556 人	100 %	85 %	15 %
（母親の職業）				
無 職	320	100	85	15
有 職	234	100	85	15
（家族構成）				
核 家 族	418	100	85	15
三世代家族	112	100	84	14

② 悩み、不安の内容

（悩んだり不安を感じたりしていることがある者）

（複数回答）

項 目	該 当 者 数	構 成 比	子供の生活態度、習慣、性格などに関すること	子供の成績、勉強にすること	子供の入試、進路にすること	子供の健康、体力にすること	非行、暴力にすること	子供の友人関係にすること（友達や異性関係）	子供の学校、教師との関係にすること	親子の意志疎通、信頼関係にすること	その他	なんとなく不安である	わからない
総 数	471 人	100 %	62	60	46	41	13	22	17	15	1	10	0
（母親の職業）													
無 職	272	100	58	59	43	39	14	22	17	15	2	8	0
有 職	199	100	66	62	51	43	11	22	18	14	0	12	—
（家族構成）													
核 家 族	356	100	62	63	47	40	13	21	18	16	1	9	0
三世代家族	94	100	62	52	41	40	13	28	16	11	1	12	—

(7) 小さい子供と父親との接触（就学前、小学校1～3年生のいる場合）

就学前、小学校1～3年生の子供のいる家庭で「子供との接触をはかるため父親はどんなことをよくやっていると思うか」を聞いたところ、「一緒に遊ぶ」70%、「ドライブ、レジャー、旅行につれてゆく」70%、「一緒におふろに入る」65%、「一緒にテレビを見る」50%、の回答が高順位を占め、次いで「スポーツをする」31%、「勉強を見てやる」23%の順であり、これらに対して「日常の世話をする」14%などは低い。

表12 子供との接触をはかるため父親はどんなことをやっていると思うか（就学前、小学校1～3年生の子供のいる場合）

（複数回答）

項 目	総 数
該 当 者 数	484 人
構 成 比	100 %
1. 日常の世話をする	14
2. 一緒に遊ぶ	70
3. 一緒におふろに入る	65
4. 幼稚園・保育園等の送り迎えをする	8
5. スポーツをする	31
6. 勉強をみてやる	23
7. 一緒にテレビをみる	50
8. ドライブ、レジャー、旅行につれてゆく	70
9. そ の 他	3
10. 特にない	5

(8) 家族のための夫の休暇の取得とその目的

昨年1年間（57年）に「夫が休暇をとった」と答えた者の割合は77%であり、また「夫が家族のために休暇を取った」と答えた者の割合は70%（「休暇を取った」を100とした割合では91%）である。家族のための休暇の目的としては、「冠婚葬祭、親せきつきあいなど」64%と、「レジャー、家族旅行など」61%の二つが高順位を占めており、その他の目的と

しては「家族の病気・けがなど」（「妻」16%、「子供」8%、「その他の家族」5%）や「子供の学校の行事等への参加」（10%）があげられている。

夫の職種別にみると、家族のための夫の休暇取得割合は事務職が高く、その目的は「レジャー、家族旅行など」が比較的多い。なお、「家族の病気・けがなど」のための休暇取得は管理職でやや低くなっている。

家族構成別には、家族のための休暇取得割合は核家族よりもむしろ三世代家族の方が若干高くなっており、その目的は「レジャー・家族旅行」が多い。なお、「妻や子供の病気・けがなど」のための休暇取得は核家族に多い。

表13 昨年1年間に家族のために夫が休暇をとったことがあるか

① 休暇取得の割合

項 目	該 当 者 数	構 成 比	休暇をとった	家族のために 休暇をとった
総 数	1,010 人	100 %	77% (100%)	70% (91%)
(家族構成)				
核 家 族	728	100	77 (100)	69 (90)
三 世 代 家 族	219	100	79 (100)	73 (92)
(夫の職種)				
事 務 職	224	100	85 (100)	79 (94)
生産・技能職	113	100	79 (100)	67 (85)
販売・サービス職	136	100	68 (100)	64 (95)
専門・技術職	216	100	77 (100)	70 (92)
管 理 職	238	100	75 (100)	66 (88)

② 家族のための休暇の取得目的

項 目	該 当 者 数	構成比	妻の病 気、け が、出 産など	子供の 病気、 けがな ど	その他 の家族 の病気、 けがな ど	子供の 学校の 行事等 への参 加	レジャ ー・家 族旅行 など	冠婚葬 祭、親 せきあ いなど	その他
総 数	704人	100%	16	8	5	10	61	64	3
(家族構成)									
核 家 族	501	100	17	9	5	9	79	66	2
三世代家族	159	100	13	6	8	12	69	62	2
(夫の職種)									
事 務 職	178	100	12	10	4	13	66	62	1
生産・技能職	76	100	25	8	5	12	54	66	4
販売・サービス職	87	100	17	9	7	8	59	62	3
専門・技術職	152	100	21	9	5	9	63	62	3
管 理 職	156	100	10	6	3	8	63	67	2

(9) 家事・育児等への夫の参加、関心に対する妻の満足度

「家事・育児等への夫の関心や協力に満足しているか」を聞いたところ、
「家事等への夫の参加」については満足（「まあ満足」38%＋「満足」15%）と答えた者が過半数、「あきらめている」（26%）と不満（「やや不満」16%＋「不満」5%）が半数弱となっている。また「子供の育児しつけ、勉強への夫の関心」については満足（「まあ満足」44%＋「満足」13%）が6割近くあるが、「あきらめている」（7%）の割合が家事等への夫の参加に比べて低い一方、不満（「やや不満」26%＋「不満」9%）の割合はむしろ高い。

表14 家事・育児等への夫の参加、関心に満足しているか

項 目	家事等への夫の参加について	子供の育児、しつけ、勉強への夫の関心について
該 当 者 数	1,010 人	990 人
構 成 比	100 %	100 %
1. 満 足 し て い る	15	13
2. まあ満足している	38	44
3. やや不満である	16	26
4. 不 満 で あ る	5	9
5. あきらめている	26	7

注 「子供の育児、しつけ、勉強への夫の関心について」の該当者数990人は、該当する子供を有するとして、回答した者である。

00 妻の外出の頻度とその理由

「平日において、日常の買物などを除き、どの位外出するか」を聞いたところ、無職の妻の場合は「週に1、2日程度」40%が最も多く有職（自営業、内職、パートなどを含む）の妻の場合は「ほとんど毎日」41%が最も多い。

なお、無職の妻が週の半分以上（「週の半分くらい」25%＋「ほとんど毎日」9%）外出すると答えた割合と週1日未満（「月に2、3日程度」23%＋「ほとんどない」4%）の割合がそれぞれ3割前後となっている。

外出の理由は、有職の妻に「就労」55%が多いことを除くと、有職、無職を問わず1位が「子供会、PTA、学校の行事などへの参加」（無職6割、有職5割）、2位が「買物（日常の買物を除く）」（無職5割、有職4割）、3位が「交際、つきあい」（いずれも4割前後）となっており、以下「趣味」「カルチャースクールなど文化・教養活動」などの順となっている。

表 1 5 平日において日常の買物などを除きどの位外出するか

① 外出の頻度

項 目	総 数	無 職 の 妻	有 職 の 妻
該 当 者 数	1,010 人	552 人	458 人
構 成 比	100 %	100 %	100 %
1. ほとんどない	3	4	3
2. 月に2、3日程度	20	23	16
3. 週に1、2日程度	35	40	28
4. 週の半分ぐらい	19	25	12
5. ほとんど毎日	23	9	41

② 外出の理由

項 目	総 数	無職の妻	有職の妻
該 当 者 数	1,006人	548人	458人
構 成 比	100%	100%	100%
1. ボランティア活動など	5	5	4
2. 婦人会、自治会など地域活動への参加	16	16	17
3. 子供会、PTA、学校の行事などへの参加	58	63	52
4. カルチャースクールなどの文化・教養活動	28	32	22
5. 各種学校などの教育訓練活動	10	13	6
6. 映画、観劇などの娯楽	7	7	6
7. 趣 味	31	34	28
8. スポーツ	18	19	17
9. 買物（日常の買物を除く。）	44	48	39
10. 交際、つきあい	39	41	36
11. 受診、療養	10	11	9
12. 就 労	25	—	55
13. 就職口をみつけるため	2	3	0
14. そ の 他	4	6	2

④ 家事援助に対するニーズ

「急な用事などができた時に近所に家事・育児などを頼める人があるか」を、聞いたところ「ある」の回答が71%、「ない」が29%となっている。

また、「労働省では、地域においてファミリー・サービス・クラブ（会員相互間で老人・子供の軽易な世話、家事などの助け合いを行う）の普及を図っているが、このようなクラブが近くにあったら参加してみたいと思うか」の質問に対しては、「わからない」が約半数あるが「参加したい」44%が「参加したくない」8%を大きく上回っている。

表16 家事援助に対するニーズ

① 急な用事などができた時に近所に家事・育児などを頼める人があるか

項目	該当者数	構成比	ない	ある		
					1・2人	3人以上
総数	1,010人	100%	29%	71%	61%	9%

② ファミリー・サービス・クラブに参加したいと思うか

項目	該当者数	構成比	参加したい	参加したくない	わからない
総数	1,010人	100%	44%	8%	49%

3 夫の単身赴任について

(1) 夫の単身赴任と留守家庭の問題

本アンケート調査の対象者1,010名のうち、「夫の転勤などで別居を経験したことがある」と回答した者が165名（現在別居中31名、過去に経験あり134名）みられ、調査対象者の16%（現在別居中3%、過去に経験あり13%）に当たる。

このうち、夫単身赴任などの際の留守家庭において「困ったことがある（あった）」と答えた者が92%の大部分にのぼる。困ったことの内容としては（困ったことがあるを100として）、1位が「経済的負担が多くなる」64%、2位が「子供のしつけ、勉強、進路など」40%、3位が「夫の生活が分からず不安」25%となっており、その他「家族の病気・けがなど」（「夫」18%、「妻」11%、「親」6%）、「妻の家事・育児負担が多くなる」（17%）をあげる者が多い。

表17 夫の転勤などで別居したことがあるか

① 別居の有無

項 目	該 当 者	
	実 数	構 成 比
総 数	1,010 人	100 %
あ る	165	16
現 在 別 居 中	31	3
過去に経験あり	134	13
な い	845	84

② 留守家庭において困ったことの有無と内容（現在別居中及び過去に経験ありの者）

（複数回答）

項 目	該 当 者 数			該当者計 の構成比
	計	現 在	過 去	
総 数	165人	31人	134人	100%
困ったことがある	151	28	123	92(100)%
1. 子供のしつけ、勉強、進路など	60	13	47	36(40)
2. 妻の病気、けが、出産など	16	2	14	10(11)
3. 夫の病気、けがなど	27	7	20	16(18)
4. 親の病気、けがなど	9	3	6	5(6)
5. 経済的負担が多くなる	97	17	80	59(64)
6. 妻の家事・育児負担が多くなる	25	5	20	15(17)
7. 夫婦間がうまくゆかない	9	1	8	5(6)
8. 夫の生活が分からず、不安である	37	4	33	22(25)
9. そ の 他	7	1	6	4(5)
特に困らない	14	3	11	9

(2) 夫の遠隔地転勤の可能性と妻の意識

調査対象者全員 1,010 名に「将来夫が遠隔地に転勤する可能性があるかどうか」を聞いたところ、「ある」と答えた者が 327 名（32%）であった。

可能性有と答えた者 327 名に対して「もしそのような状況になったら家族別居するか、夫に同行するか」を聞いたところ、「別居する」と答えた者が 125 名（38%）、「家族同行する」が 156 名（48%）、「わからない」が 46 名（14%）である。

なお、夫の遠隔地転勤の可能性無の者 681 名に対しても同様に仮定の下で別居か家族同行かを聞いたところ、「別居する」と思う者の割合は 22%、「家族同行する」49%、「わからない」28%で、現実の可能性のある場合に比べて「わからない」の割合が多く、「別居する」の割合は 1 割以上低い。

夫転勤の可能性がありその場合には別居すると答えた者 125 名に対して、その理由を聞いたところ、「子供の学校などのため」97 名（78%）が最も多く、次いで「持家があるため」71 名（57%）、「親と同居しているため」20 名（16%）、「妻本人が働いているため」18 名（14%）の順で多い。また、夫転勤の可能性はないがもしそうならば別居すると思うと答えた者 153 名の理由をみると、可能性のある者の理由に比べて、「子供の学校などのため」の割合が 1 割程度低い一方「妻が働いているため」「親と同居しているため」の割合がそれぞれ 1 割以上高くなっている。

表 18 将来夫が遠隔地に転勤する可能性があると思うか、その際は家族別居すると思うか。

① 夫 転勤の可能性

項 目	総 数	あると思う	ないと思う	わからない
該 当 者 数	1,010 人	327	681	2
構 成 比	100 %	32	67	0

② その際の家族別居の可能性

項 目	総 数	別居すると思う	家族が同行すると思う	わからない
夫転勤の可能性有				
該 当 者 数	327 人	125	156	46
構 成 比	100 %	38	48	14
夫転勤の可能性無				
該 当 者 数	681 人	153	335	193
構 成 比	100 %	22	49	28

③ 家族別居の理由

項 目	総 数	子供の 学校な どのた め	親と同 居して いるた め	持家があるた め	妻が働 いてい るため	知らない 土地に行 くのが不 安なため	なんとなく ついて ゆかない 気がする	そ の 他
夫転勤の可能性有								
該 当 者 数	125人	97	20	71	18	5	2	5
構 成 比	100%	78	16	57	14	4	2	4
夫転勤の可能性無								
該 当 者 数	153人	102	39	87	45	5	7	6
構 成 比	100%	67	25	57	29	3	5	4

(3) 夫の転勤などにより現在別居している家族の状況

① 夫と妻の年齢構成

項 目	総 数	29歳以下	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～50歳	51歳以上
妻	31人	0	5	4	10	12	
	100 %	—	16	13	32	39	
夫	31人	0	1	3	8	10	9
	100 %	—	3	10	26	32	29

② 子供の状況

(複数回答)

総 数	就学前 (乳幼児)	小学校 1～3年生	小学校 4～6年生	中学生	高校生、 大学生など	学校は 卒業した
31人	4	5	4	14	16	9
100%	13	16	13	45	52	29

③ 夫の職種

総 数	事務職	生産・ 技能職	販売・サ ービス職	専門・ 技術職	管理職	その他
31人	4	4	3	8	10	2
100%	13	13	10	26	32	7

④ 親との同居

総 数	同居している	同居していない
31人	5	26
100%	16	84

⑤ 妻の職業の有無

総 数	無 職	有 職
31人	20	11
100%	65	35

有職者のうちわけは、常勤(2人)、パート・臨時など(4人)、
内職(5人)である。

⑥ 小学校４～６年生、中学生がいる場合の母親の子供に関する悩み、不安

項 目	該 当 者 数	構 成 比
総 数	15 人	100 %
悩み、不安がある	12	80
1位 子供の入試、進路に関すること	9	75
2位 子供の成績、勉強に関すること	8	67
3位 子供の生活態度、習慣、性格に関すること	6	50
子供の健康、体力に関すること	6	50
悩み、不安はない	3	20

注 「悩み、不安がある」の計には、「その他」の悩み、不安を含む。

4 調査対象者について

調査対象者は、勤労者の配偶者を有し、かつ、子供のある５０歳未満の女子
1,010名であり、全国の婦人就業援助施設及び働く婦人の家９０所の利用者の
うちから一定の方法で抽出した。

調査対象者の基本的属性は次のとおりである。

(1) 年齢構成

項 目	計	29歳以下	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳
実 数(人)	1,010	76	209	274	266	185
構成比(%)	100.0	7.5	20.7	27.1	26.3	18.3

(2) 夫の年齢構成

項 目	計	29歳以下	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～50歳	51歳以上
実 数(人)	1,010	31	127	239	267	254	92
構成比(%)	100.0	3.1	12.6	23.7	26.4	25.1	9.1

(3) 同居家族の構成

項 目	実 数	構 成 比 例
計	1,010	100.0
1. 夫婦のみ	10	1.0
2. 夫婦と子供	718	71.1
(うち中学生以下の子を有するもの)	(609)	(60.3)
3. 三世代	219	21.7
4. その他の世帯	63	6.2
(うち単身赴任等により別居しているもの)	(31)	(3.1)

注 親との同居の状況について、家族構成員別にみると、夫の親との同居が妻の方よりも多く、また、夫の母との同居は全体の17.1%、夫の父とは10.5%を占める。

(複数回答)

項 目	実 数 (人)	構 成 比 例
計	1,010	100.0
1. 夫	979	96.9
2. 子 供	998	98.8
3. 夫 の 父	106	10.5
4. 夫 の 母	173	17.1
5. 妻 の 父	27	2.7
6. 妻 の 母	48	4.8
7. 兄 弟 姉 妹	15	1.5
8. そ の 他	18	1.8

(4) 子供の数

項 目	計	1 人	2 人	3 人	4 人	5人以上
実 数 (人)	1,010	154	623	216	14	3
構 成 比 例	100.0	15.2	61.7	21.4	1.4	0.3

(5) 子供の就学状況

(複数回答)

項 目	実 数	構 成 比 例
計	1,010	100.0
1. 就学前(乳幼児)	272	26.9
2. 小学校1～3年生	342	33.9
3. 小学校4～6年生	382	37.8
4. 中学生	313	31.0
5. 高校生、大学生 (高専・短大を含む)	324	32.1
6. 学校は卒業した	101	10.0

(6) 就労状況

項 目	計	無 職	常 勤	パート・臨時 雇など	内 職	家族従業者	自営業主
実 数(A)	1,010	557	115	118	170	34	16
構成比例	100.0	55.1	11.4	11.7	16.8	3.4	1.6

(7) 夫の就労状況

項 目	計	事 務 職	生産・技能職	販売・ サービス職	専門・技術職	管 理 職	そ の 他
実 数(A)	1,010	224	113	136	216	238	83
構成比例	100.0	22.2	11.2	13.5	21.4	23.6	8.2

(附 録)

都道府県名	施設名	個人番号	総番号

(この欄は、記入する必要はありません。)

(秘)

労働省婦人少年局

勤労者家庭の妻の意識に関するアンケート調査

今後の勤労者家族福祉対策を進めるために、あなたのご家庭の日常生活などにつきまして、卒直なお答えをお聞かせ願いたいと思います。このアンケートは無記名で、記入された内容については、調査以外の目的で利用されることはありません。

(記入上の注意)

回答については、特にことわりのない限り、該当する番号を1つ選んで○で囲んで下さい。その他については、質問に従って記入して下さい。

1 あなたの状況について

問1 あなたは、何歳ですか。

- (1. 29歳以下 2. 30～34歳 3. 35～39歳 4. 40～44歳 5. 45～50歳)

問2 あなたのご主人は、何歳ですか。

- (1. 29歳以下 2. 30～34歳 3. 35～39歳 4. 40～44歳 5. 45～50歳)

問3 あなたが一緒に暮らしているご家族は、あなたからみてどのような続柄の方々ですか。該当する番号をすべて○で囲んで下さい。

- (1. 夫 2. 子供 3. 夫の父 4. 夫の母 5. 妻(本人)の父 6. 妻(本人)の母
7. 兄弟姉妹 8. その他)

問4 ① お子さんは何人ですか。

- (1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人 5. 5人以上)

② お子さんは、次のどれに当たりますか。該当する番号をすべて○で囲んで下さい。

- (1. 就学前(乳幼児) 2. 小学校1～3年生 3. 小学校4～5年生 4. 中学生
5. 高校生、大学生(高専・短大を含む。) 6. 学校は卒業した)

問5 あなたは、今、仕事についていますか。2つ以上の仕事をお持ちの方は、主なもの1つについてだけお答え下さい。

- (1. 無職 2. 常勤 3. パート、臨時雇など 4. 内職 5. 家族従業員 6. 自営業主)

問6 ご主人の職業は何ですか。

- (1. 事務職 2. 生産・技能職 3. 販売・サービス職 4. 専門・技術職 5. 管理職 6. その他)

2 家事・育児などの家庭機能について

問7 あなたの家庭では、次のようなことについて、どなたが主に担当していますか。また、主としてあなたが行う場合には、ご主人の協力についてもお答え下さい。該当する欄を○で囲んで下さい。

項 目	夫 婦 が 協力する	主として 夫	主として妻(本人)			主として その他の 家 族
			夫はある 程度する	夫は少 しする	夫はほとん どしない	
1. 日常の家事(掃除、洗たく、食事、買物など)						
2. 日常の育児(子供の世話、お守、遊び相手など)						
3. 幼稚園・学校等の行事、PTAなどへの参加						
4. 自治会、町内会など地域活動への参加						
5. (病人・お年寄りがいる場合)病人・お年寄りの世話						

問 8. 病氣・けが、出産により、あなたが寝込んだり入院したりした時、どなたが家事・育児をしましたか。その際、困ったことがありましたか。下から選んで、該当する欄をすべて○で囲んで下さい。

(1) 妻(本人)の病氣・けがの有無 (1. ある 2. ない) (2) 妻(本人)の出産の有無 (1. ある 2. ない)

家事・育児などの担当者(M.A.)	病氣・けがの時	出産の時
1. 夫		
2. 妻(本人)の母		
3. 夫の母		
4. 子供		
5. 妻(本人)の父又は夫の父、兄弟姉妹、親せき		
6. 友人、知人		
7. 近所(地域)の人		
8. 家政婦、ベビーシッター		
9. その他		
10. 特に誰もいない		

困ったことの内容(M.A.)	病氣・けがの時	出産の時
1. 気軽に家事・育児を頼める人がいなくて困った		
2. 夫が忙しくて手助けがなくて困った		
3. 自分の健康・体力の回復が思わしくなくて困った		
4. 育児の経験者や相談相手がなくて困った		
5. 経済的に困った		
6. 特に困ったことはない		
7. その他		

問 9. あなたのご家族が病氣・けがなどで寝込んだり入院したりした時、どなたかその介護や家事・育児などを助けてくれる人がありましたか。その際、困ったことがありましたか。下から選んで、該当する欄をすべて○で囲んで下さい。

(1) 夫の場合 (1. ある 2. ない) (2) 子供の場合 (1. ある 2. ない) (3) 同居の親の場合 (1. ある 2. ない)

介護や家事・育児の援助者(M.A.)	夫	子供	同居の親
1. 夫			
2. 妻(本人)の母			
3. 夫の母			
4. 子供			
5. 妻(本人)又は夫の父、兄弟姉妹、親せき			
6. 友人・知人			
7. 近所(地域)の人			
8. 家政婦、ホームヘルパー			
9. その他			
10. 妻(本人)の他には、特に誰もいない			

困ったことの内容(M.A.)	夫	子供	同居の親
1. 気軽に病人の介護や家事・育児を頼める人がいなくて困った			
2. 夫が忙しくて手助けがなくて困った			
3. 自分が体力的に疲労困ばしい			
4. 自分が精神的に疲労困ばしい			
5. 相談相手がなくて困った			
6. 入院できる病院等がなくて困った			
7. 経済的に困った			
8. 特に困ったことはない			
9. その他			

問10. ① 平日において、あなたは、日常の買物などを除き、どの位外出されますか。

1. ほとんどない
2. 月に2、3日程度
3. 週に1、2日程度
4. 週の半分ぐらい
5. ほとんど毎日

② 外出する理由は、次のどれに当たりますか。該当する番号をすべて○で囲んで下さい。

1. ボランティア活動など
2. 婦人会、自治会など地域活動への参加
3. 子供会、PTA、学校の行事などへの参加
4. カルチャースクールなどの文化・教養活動
5. 各種学校などの教育訓練活動
6. 映画、観劇などの娯楽
7. 趣味
8. スポーツ
9. 買物（日常の買物を除く。）
10. 交際、付き合い
11. 受診、療養
12. 就労
13. 就職口をみつけるため
14. その他（具体的に

3 家庭生活における夫婦及び親子のコミュニケーションについて

問11. ① 平日において、ご主人は、睡眠時間を除けば、どれ位在宅していますか。

- (1. 2時間未満 2. 2～3時間未満 3. 3～5時間未満 4. 5～7時間未満 5. 7時間以上)

→② ご主人の在宅時間の短い理由は、主としてどれに当たりますか。

1. 通勤時間が長い
2. 残業などにより会社にいる時間が長い
3. 同僚、友人との付き合いによる
4. 自分の趣味、勉強などによる
5. わからない
6. その他（具体的に

問12. あなたの家庭では、通常、1週間に何回位家族そろって食事をとりますか。

① まず、朝食については、どうですか。

- (1. ほとんど毎日 2. 半分ぐらい 3. 1、2回 4. ほとんどない)

② 夕食については、どうですか。

- (1. ほとんど毎日 2. 半分ぐらい 3. 1、2回 4. ほとんどない)

問13 あなたの家庭では、次のようなことについて、夫婦でよく話し合いますか。また、話し合わないと言えた方は、その理由について、該当する欄をすべて○で囲んで下さい。

① (就学前、小学生及び中学生の子供のいる方へ)

子供のしつけ、勉強、進路 (1. よくある 2. 時々ある

3. あまりない 4. ほとんどない)

② (現在及び近い将来世話する親のいる方へ)

親の世話 (1. よくある 2. 時々ある

3. あまりない 4. ほとんどない)

その理由(M.A.)

項 目	子供のしつけ、勉強、進路	親の世話
1. 妻(本人)にまかされているから		
2. 特に話し合わなくても意見が一致しているから		
3. 夫が忙しくて時間がないから		
4. 夫が面倒がるか、イヤがるから		
5. 夫にまかせているから		
6. その他(具体的に)		
7. 特に理由はない		

問14 (小学校4～6年生及び中学生のいる方に対して) あなたのお子さんは、あなたやご主人と話し合いますか。また、話し合うと言えた方は、その内容について、該当する欄をすべて○で囲んで下さい。

① あなた(母親)とは、(

1. よくある 2. 時々ある

3. あまりない

4. ほとんどない)

② 夫(父親)とは、(

1. よくある 2. 時々ある

3. あまりない

4. ほとんどない)

項 目	あなた(母親)とは	夫(父親)とは
1. 子供の学校生活(学校、友人、先生)		
2. 趣味・スポーツなど余暇活動		
3. 子供の将来、進路、職業		
4. 社会で起きた事件、ニュース		
5. 父親の仕事のこと		
6. 家族のこと		
7. その他		

問15 (小学校4～6年生、中学生のいる方に対して) お子さんは、父親の仕事などについて、どの位知っていると思いますか。

① 仕事について (1. よく知っている 2. 大体知っている 3. 少し知っている

4. ほとんど知らない 5. わからない)

② 職場について (1. 見たことがある 2. 見たことがない)

③ 運動会など会社の行事への参加について (1. 参加したことがある 2. 参加したことがない)

問16. (小学校4～5年生、中学生のいる方に対して) あなたは、お子さんのしつけや教育上のことなどで、悩んだり不安を感じたりしていることがありますか。また、悩みなどのある方は、その内容について、該当する番号をすべて○で囲んで下さい。

- (1. ある 2. ない)
- その内容
(M. A.)
- 1. 子供の生活態度、習慣、性格などに関する事
 - 2. 子供の成績、勉強に関する事
 - 3. 子供の入試、進路に関する事
 - 4. 子供の健康、体力に関する事
 - 5. 非行、暴力に関する事
 - 6. 子供の友人関係に関する事 (友達や異性関係)
 - 7. 子供の学校、教師との関係に関する事
 - 8. 親子の意志疎通、信頼関係に関する事
 - 9. その他 (具体的に)
 - 10. なんとなく不安である
 - 11. わからない

問17. (就学前、小学校1～3年生のいる方に対して) あなたからみて、ご主人は、ご家庭でお子さんとの接触をはかるため、どんなことをよくやっているといますか。該当する番号をすべて○で囲んで下さい。(M. A.)

- 1. 日常の世話をする
- 2. 一緒に遊ぶ
- 3. 一緒にお風呂に入る
- 4. 幼稚園・保育園等への送り迎えをする
- 5. スポーツをする
- 6. 勉強をみてやる
- 7. 一緒にテレビを見る
- 8. ドライブ、レジャー、旅行につれてゆく
- 9. その他 (具体的に)
- 10. 特になし

問18. ① 昨年の1年間に、ご主人は休暇をとったことがありますか。

- (1. ある 2. ない)

② (休暇をとった方に対して) ご主人は、家族のために、休暇をとったことがありますか。また、休暇をとったことのある方は、その理由について、該当する番号をすべて○で囲んで下さい。

- (1. ある 2. ない)
- その理由
(M. A.)
- 1. 妻 (本人) の病気、けが、出産など
 - 2. 子供の病気、けがなど
 - 3. その他の家族の病気、けがなど
 - 4. 子供の学校の行事等への参加
 - 5. レジャー・家族旅行など
 - 6. 冠婚葬祭、親せき付き合いなど
 - 7. その他 (具体的に)

4 家事援助に対するニーズについて

問19. あなたは、次のことについて、ご主人の関心や協力が満足しておりますか。

① 家事等への参加について

- (1. 満足している 2. まあ満足している 3. やや不満である 4. 不満である 5. あきらめている)

② 子供の育児、しつけ、勉強への関心について

- (1. 満足している 2. まあ満足している 3. やや不満である 4. 不満である 5. あきらめている)

例20 ① あなたの家庭で急な用事などができた時に、近所に家事・育児などを頼める人がありますか。

(1. なし 2. 1、2人 3. 3人以上)

② 労働省では、地域において、ファミリー・サービス・クラブをつくり、その会員の間で、老人・子供の転居を世帯、家事などの助け合いを行うという事業の普及を図っておりますが、あなたは、このようなクラブが近くにあれば参加してみたいと思いますか。

(1. 参加したい 2. 参加したくない 3. わからない)

5 単身赴任について

問21 ① あなたの家庭では、今までに、ご主人の転勤などにより、夫婦が別居したことがありますか。

(1. 現在別居中である 2. 今までに別居したことがある 3. ない)

② (①の 1、2 と答えた方に対して) その場合、別居したことがありますか。該当する番号をすべて○で囲んで下さい。

1. 子供のしつけ、勉強、進路など
2. 妻(本人)の病気、けが、出産など
3. 夫の病気、けがなど
4. 親の病気、けがなど
5. 経済的負担が多くなる
6. 妻(本人)の家事・育児負担が重くなる
7. 夫婦間がうまくいかない
8. 夫の生活が分からず、不安である
9. その他(具体的に)

③ あなたの家庭では、将来、ご主人が遠隔地に転勤するという可能性がありますか。

(1. ある 2. ない)

④ 一般的に考えて、もし、ご主人が遠隔地に転勤する状況になったら、あなたは、別居すると思いますか。また、別居すると答えた方は、その理由についてもお答え下さい。該当する番号をすべて○で囲んで下さい。

(1. 別居する 2. 同居するため、ついでに 3. わからない)

その理由
(M.A.)

1. 子供の学校などのため
2. 親と同居しているため
3. 持家があるため
4. 妻(本人)が働いているため
5. 知らない土地に行くのが不安なため
6. なんとなくついでに嫌いな気がする
7. その他(具体的に)

(御協力ありがとうございました。)